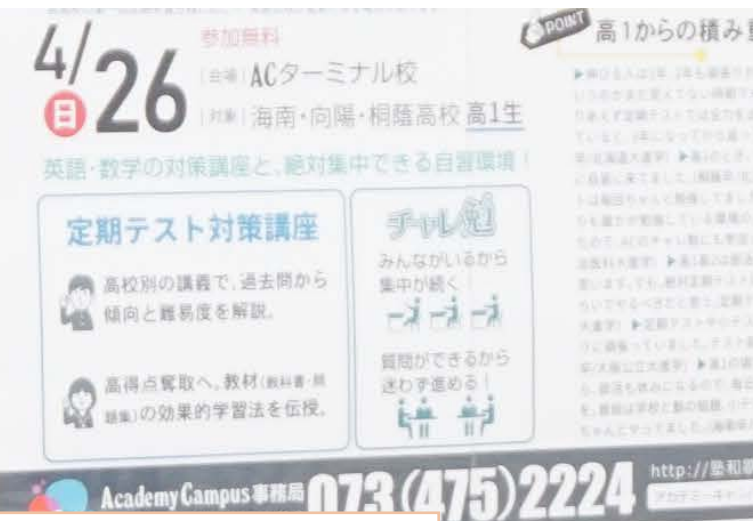




進学先

神戸大学 経営学部

須山 央太さん
向陽高校

志望校を決めたのはいつ頃ですか。

須山: 神戸大学経営学部と決めたのは高1の4月です。中学生のときにUSJに行って、森岡毅さん※のことを知って。そこで初めて神戸大学という名前も知ったんです。僕は大学とかもう全く何も知らない感じだったから、本当に初めて。で、そのころからなんとなく頭の中に残っていて。そのあと、いざ高校に入ったらちょっと大学のことを知る機会が増えて「あ、神戸ってけっこうすごい大学なんや」って。最初はそんなノリで神戸の経営って言っていた感じです。あと、中3の受験の最後のほうに森岡さんの本を2・3冊買いあさって一通り読んだんです。それがおもしろくて。それまでは覇気とかないもない、てきとうな中3受験生で、将来の夢もないようなマシーンみたいな感じだったんですけど。初めてやりたいことが見つかった感覚でした。そんなこともあって、神戸大学経営学部と決めました。それから志望校を変えようと思ったことは、初期に1回だけありました。自分が学びたいことに関して、一橋大学も同じくらい強いので、そっちもいいのか。で、考えたときの最終の決定理由は、本当にしょうもないんですけど、甲子園が近いから(笑)。後づけの理由としては、学ぶ内容の方向性もあるんですけど。そんな風に一瞬迷いましたが、3年間ずっと神戸大学志望でした。入学式で森岡さんの講演があるのも楽しみです。

※森岡毅(リカ ヲシ)氏

神戸大学経営学部卒業後、96年P&G入社。ブランドマネジャーとしてヴィダルサスーンを担当し同ブランドの黄金期を築く。P&G世界本社(米国シンシナティ)へ転籍、北米パンテーンのブランドマネジャー、ヘアケアカテゴリー アソシエイトマーケティングディレクター、ウエラジャパン副代表を経て、USJ入社。同社CMO(チーフ・マーケティング・オフィサー)、執行役員、マーケティング本部長を務める。高等数学を用いた独自の戦略理論、革新的なアイデアを生み出すノウハウ、マーケティング理論等、一連の「森岡メソッド」を導入し、経営危機にあったUSJをわずか数年で劇的に経営再建。2017年、マーケティング精鋭集団「株式会社刀」を設立し、「マーケティングとエンターテインメントで日本を元気に」という大義の下数々のプロジェクトを推進。



高1からACの自習室に来て3年間受験勉強に力を入れてきた背景にはどんなモチベーションがあった？

須山: 志望校が決まっても、高1の秋くらいまではなあなあでした。勉強はしないといけないんだろうなと思いながら、好きな数学だけやっていました。暇だなーって思ったら数学をする感じで。うっすらと受験を意識し始めたのは、高1の冬くらい。友だちとアカデミーの自習室に来始めて。「この時期から行っておけば、受かるだろう」「かっこいいし」「とりあえず行

く？」みたいなノリで。最初はそんな感じで始まったんですけど、高2の春くらいには、ガチで神戸大に行きたいなって思い始めて、受験を意識してちゃんと動くようになりました。受験勉強へのモチベみたいなのは、やっぱり志望校・目標がでかかったから。高2だったら、たぶん受験とかじゃなくても、別に何に力を入れてもいいじゃないですか。でも、例えば2週間に1回休みがあるとして、それ以外は勉強っていう行動する理由は、やっぱりモチベ以外ないかなって思うんです。やらされているんだったら、9割以上を勉強とか絶対できない。僕は、もうずっと、神戸大に行きたいってことだけが原動力だった。それだけ。そういうのがあったら、「遊びたい・勉強したい・友達とどこか行きたい」みたいな中から、結局勉強を選ぶ確率が高い。勝手にそうなる。もちろん月1・2回くらいは遊びに行くこともあったけど、シンプルに勉強を選ぶことが多かったから、遊びを選ぶ確率が低いっていうだけ。ただ、自分がそういう考え方だったってだけです。高2の夏は、オープンキャンパスとか遊びに行くって予定が入っていた以外はとりあえず塾に来ようみたいな。とりあえず来て、22時まで自習して帰って。ちょっとゲームをしたりゆっくりしたりして、寝て、朝にまた塾に来る(笑)。他に何も予定がない日はそんな感じでした。勉強したいから部活も辞めていたし。結局、なにかを捨てないといけないかなと思って。そりゃ、全部できたらいいですけど、志望校合格を絶対に優先したいってなったら、ある程度他を切っていくしかないとしんどいなってというのが僕の考えだった。

参考書や問題集はどのように選んで進めていましたか。

須山： 少しずつ買い始めたのが、高1の秋冬。高2からは学校の進度や周りがやっていることから外れて、自分で選んだ参考書や問題集で進めました。みんなと違うことをするのは最初は多少怖いですが、否定してくる人もいないので嫌だったけど、まあやるしかないし。慣れたら大丈夫(笑)。参考書とか進め方の選択は、ネットで情報収集したり、岡先生もそうですけど、先生に聞いたり。一つの情報に絞るのは危ないからいろいろ調べて、その中で自分に合っているものを取捨選択。自己責任で。自分で決めたことの方が進められるから。



数学は青チャート(チャート式(数研出版))を高2の秋に終わらせました。学校では習っていないから、自分だけでは初めの導入はやっぱりきつけど、アカデミーのハイレベル(ACクラスライブ授業:高1・高2ハイレベル数学)でその部分をやってくれたから、自分でも進められました。ハイレベル数学は進度が速いのが魅力。それに合わせていけばいいって感じでした。で、高2の秋に青チャートが終わったら「やること何もないっす」って岡先生に相談して。15か年(赤本 難関校過去問シリーズ神戸大の数学15か年(教学社))を薦めてもらったので、それをやって、高2の最後の方に終わって。そこからは過去問をたまに解いていたんですけど、数学は高3の春にやるのがなくなりました(笑)。15か年に載っていない過去問とかやっても、満点のときもあったくらい。数学は得意だったからっていうのもあるかもしれないです。小学校から算数・数学はあまり勉強しなくても取れたので。好きだったし。

英語については、受験勉強をしようってなるとどうしてもやらないといけないので。好きではなかったけど。ターゲット(英単語ターゲット(旺文社))は高2の冬くらいまでやって、そのころから英作文の勉強を触り始めたけど全く書けなくて。結局、何がダメなのかを考えたら、「この動詞とこの名詞はセットで使える」みたいなネイティブの感覚が無い。飛び飛びで覚えた単語をつなげる感覚。それが分からないと書けないよねってなって。それでリープ(LEAP 必携 英単語(数研出版))をやり始めました。情報量多すぎでしんどかったけど、結局リープをやらないと英作文はできないなってなって。

英文解釈は、高2の夏くらいに 動画で分かる(大学入試 Basic Lecture 動画でわかる英文法(旺文社))をやってみて、まあまあ理解したあとで、友だちに教えてもらった英文熟考(大学受験のための 英文熟考(旺文社))。調べたらよさそうだったのでやって

みたら、自分にも合っていました。けっこう到達点も高いし。最後までそれだけで進めました。神戸大の英語を触ったのは高3の春くらいで、長文だけだったら触れるかなと思ったけど、レベル的にまだしんどかったです。最終、夏休み最後くらいに終わりました。

でも国語が絶望的だったから。もう、あとは国語だけって感じで。高3では難関大英語(ACクラスライブ授業:難関大二次対策英語)もやったほうが良いとは思っていたんですけど、時間がなくて。国語がヤバすぎて。共テ国語(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略国語)は、長沼先生の古文漢文の解説は自分に合っていました。なんでと言われたら分からないんですけど、受けてよかったです。



定期テストの勉強はどうしていましたか。

須山： 高1では、まあ、ある程度はしていました。でも高2の春に、志望が同じ大学の友だちの評定を聞いたら4.8って言われて。「あ、(そのレベルは)無理だ」って思って。そこから定期テストは切りました。実力が無いから、赤点はとらないように多少やる程度で。で、夏前くらいからは定期テストの勉強は一切やらなくなりました。定期テストの勉強が受験勉強につながることもあるけど、別にそれよりももっといいやり方があるよねっていう考えで。定期テストもできたらカッコいいけど、それをやっていたら受験に間に合わないってなったら切るしかないじゃないですか。でもそのやり方は、やっぱりいろいろ言われたし、嫌だったけど、そうするしかないと思ったから。切るしかないです。初めからそういう考えだったわけではなくて、その時点ではそうするしかなかったんだから、仕方ない(笑)。受験勉強は、ゴールに対してこの時点でここまでできているから、まあペースはいいよねみたいな判断をしながら進めました。ゴールしか見えないから、ある程度ざっくりとこの時期までにこれをやるってことは決めているけど、多少どうでもいいって感じで。



神戸大に合格できそうと思ったタイミングは？

須山： 本当に行けそうってなったのは、高3の夏くらい。国語に兆しが見えてきてから。それまでも、いけるであろうとは思ってたけど、本当に行けると思ったのは夏。でも9月くらいには、無理かもってなりました。国語の過去問をやったらしんどくて。で、またちょっとできてきたら、行ける！ってなって。岡先生にもずっと言っていたけど、最終、国語勝負でした。小中から国語はダメで。本当は高2の後半から国語を進められたらいいなと思っていたんですけど、そううまく進まず。結局、高3になって英数が出来上がってきたから国語に時間を使えたけど、初めはそこまで伸びず。読み方・やり方みたいなのもやってみていたけど、結局、本文の言いたいことを分からないとダメだよなってなって。やり方みたいなのはその場しのぎだよなっていう方に切り替えたら、ハマって一気に伸びた。開発講座(開発講座シリーズ 現代文読解力の開発講座(駿台文庫))が参考になりました。それで、ある程度いけるようになった。そのほうがちゃんと読めた分だけ点になる。共通テストでも、選択肢を消さなくても、読めたら「これだ」ってなるからちゃんと点数になる。自分にはそっちの方が合っていたかな。

AcademyCampusはどう活用していましたか。

須山： 高1から授業を受けていて、初めは部活もやっていたから英語はアドバンス(ACクラスライブ授業:高1アドバンス英語)。高1冬で受験を意識し始めてハイレベル(高1ハイレベル英語)に変えました。周りのレベルがだいぶ高かったから初めはちょっとしんどかったけど、なんとかあった。あの時期に文法ばかりやって、ある程度基礎を固められたのがよかったかな。あと、高いレベルでやっているから、ここまでできたらいいんだなっていうのが見えたのがよかったです。サテライン(代ゼミサテライン講座)で受けてよかったのは、政経。高2の1月くらいに始めて、週2で受けて1周は高2の間に終わらせました。そこから移動中とかにも何度か受けて、結局3・4周したと思います。蔭山先生(蔭山克秀 講師)の参考書をノートにがわりにして、書き足していくっていうやり方で。受けてから9割くらいには安定しました。

高1で自習に来始めてからは、高1・高2と自習室に入り浸ってました(笑)。自習だけだとたぶんどこに行っても変わらないと思うけど、アカデミーでは授業も受けていたから。あと、高3になってからも授業を受けていたけど、大きかったのは進み具合の確認。岡先生に相談したり。やっぱりネット情報だけじゃなくて、話をした方が細かく聞けるから。だから定期的に話をしに来るようにしていました。あと、参考書を借りたりできたのもよかったです。

志望校に入学というスタートラインに立って、次の目標や将来はどう考えていますか。

須山： 得意な数学を突きつめて、分析をするみたいなスキルを得たいなと。それで将来は、マーケターやコンサル系かな。とりあえず、数学は武器になるから、数学を頑張るつもりです。



3年間の受験勉強を振り返って。

須山： 勉強するにあたって、最初から本質的なことをやらないと後からしんどいなって思うことが、3年間で何度もありました。数学だったら、公式みたいなのを大半の人が覚えて使っているけど、覚えるだけだったら応用がきかないというか。公式なんか当たり前だよねっていうレベルまでやって、やっと戦える気がする。英単語とかも最初は一語一訳だけど、それだけだと結局英作文はできない。覚えている訳に縛られて書けなくなるから。だから初めからいっぱい入れておくべきだったなと思いました。現代文も読み方がどうかよりも結局本質だよねみたいな。最初からそうしておけばよかったなって、どの教科においてもそう思いました。初めから本質的なことをするのはめっちゃしんどいと思うけど、受験勉強をトータルみたらその方が楽なんだろうなって。

あと、成長したことは"自己責任で"みたいなことだと思います。自分で突き進んできたから。周りに合わせるのも悪くないけど、意志を持ってやるっていう。周りに流されず、やるべきだと思ったことをちゃんとやれる、みたいな。実行力というか、どう言えばいいか分からないですけど、それが一番大きかったです。何も周りを見ずに突っ走っていくような、目隠しして運転するようなことは、違うと思うけど。自分で決めて、自分でやる。自分で選ばなかったら後悔する。結局そのほうが自分のためになるかなと思います。

あとは楽しみみたいなのは、みんなでちょっとカップ麺を食べにいたり、疲れたらちょっと良い飯を食べに行ったりとかでした。美味しいって聞くラーメン屋さんとか。どの時期でも、周りに勉強する友だちがいたっていうのはよかったです。一人で続けてたらメンタル終わってました(笑)。周りに恵まれていたところもあると思います。

インタビューを終えて

須山君との思い出の中で特に印象に残っているのは、高1の春、最初の面談で「神戸大学経営学部を目指す」と話してくれたことです。すでに3年後の目標を明確に設定していたことに驚かされましたし、その言葉に込められた意志の強さを今でも覚えています。

その後は、目標達成のために必要なことを自分で決め、毎日のように自習室へ通い、授業を選び、途切れることなく努力を積み重ねていました。高校3年間で志望校合格のために使い切った計画力・実行力・継続力、そして揺るがない意志は、本当に素晴らしいものです。

インタビューでも話してきていましたが、参考書や勉強方法についてはネットやSNSなど多くの媒体から情報を集めていました。ただ、その一つの意見を鵜呑みにするのではなく、必



ず相談に来てくれて、情報を整理し、取捨選択し、最後は自分で判断して方向性を決めていきました。その姿勢には、確かなリテラシーの高さと主体性が感じられました。こうした力は、大学生活はもちろん、須山君が目指す仕事やこれからの人生においても必ず大きな武器になるはずです。将来どんな仕事をし、どんな人間へと成長していくのか、今からとても楽しみにしています。これからの活躍を心から期待しています。